【前回のまとめ】

1. 色々な葛藤がありましたが、たくさんの方と出会えたことが宝物で、この病気も決して悪いものではないと、やっと言えるようになった。
2. 回収率が近隣市の調査と比較して高いかどうか。

自治体名	調査名	対象者	対象人数	調査方法	調査時期・期間	回収率
三田市	認知症に関する市民意識調査	市内在住、満16歳以上（無作為）	2,000人	郵送配布・回収	令和3年4月～5月	57.2%
伊丹市	地域福祉計画のためのアンケート調査	市内在住、18歳以上（無作為）	3,000人	郵送配布・回収	令和元年8月23日～9月10日	37.7%
猪名川町	地域福祉に関するアンケート調査	町内在住、20歳以上（無作為）	3,000人	郵送配布・回収	令和元年7月22日～8月7日	38.4%
神戸市	市民福祉に関する行動・意識調査	市内在住、20歳以上（無作為）	5,000人	郵送配布・回収	令和元年11月22日～12月19日	36.6%
宝塚市	地域福祉改定に関するアンケート調査	市内在住、18歳以上（無作為）	2,500人	郵送配布・回収	平成30年7月19日～8月3日	38.5%
芦屋市	芦屋市地域福祉に関する市民意識調査	市内在住、18歳以上（無作為）	3,000人	郵送配布・回収	平成28年3月15日～3月31日	49.8%
三木市	三木市地域福祉計画のためのアンケート調査	市内在住、18歳以上（無作為）	2,000人	郵送配布・回収	平成28年10月	52.7%

3. 周りに知られることに勇気がいると言われる。
4. 懇話会内だけの共有ではなく、抜粋版等を新聞記事に提供してはどうか。
5. 今回の結果をもっとたくさん広げてそこから広い意見を拾い上げてほしい。
6. 認知症の理解を深める努力が必要。
7. 三田市の広報誌と組み合わせて、あんしんガイドブックの認知度を上げられないか。市民の方が手に取りやすいところに設置できないか。
8. SNS を使って若い人達の認知度を上げていけないか。
9. 特定健診や後期高齢者基本健診時にもの忘れチェック等のスクリーニングができないか。
10. （認知症カフェ）民生委員や個人のボランティア、キャラバンメイト等、地域の方のボランティア精神のある人が集まって運営している。
11. 地域の方が一緒にお茶を飲みながら少しの時間過ごしてくれるだけでいいが、現実は難しい。
12. 三田市内のどこの教育機関でも認知症について考える場が持てたらいいと思う。
13. アンケートに地域ごとの数値が出ているが、そのことによりどのような事が見いだせているのか。
14. 若者と高齢者の意見の分離を市でもっと分析し条例に反映させるべきかどうか。また職業の違いもはっきりと出ていたので、これを分析し対策の違いに持ち込めるかどうかの検討。
15. 動画配信や SNS を使って関心を持っておられる方へ情報を伝えることができればいいのでは。
16. 自由意見にサポーター養成講座はハードルが高いという意見がありましたが、なぜそのように思うのかを市民に対して聞き取り調査をしてはどうか。
17. 教育が染み込む対象に対して講座と同じような授業を行う。
18. 緊急時の対策。
19. レスパイト入院やレスパイト預かりが身近にあり、困った時にはそこへ駆け込めば対応してもらえるというような施設や制度が必要。
20. 若い世代への教育活動が重要で、直ちに効果があるものではないが、種を植えるのには若い世代

がいいのではないか。

21. ボランティア団体だけで運営しても潰れてしまうだけなので、介護する人のガス抜きを念頭に入れて市として率先して認知症カフェをしてほしい。
22. 情報提供のあり方を根本的に見直す必要がある。
23. 医療と介護をうまく連携。
24. 月のうち半分はショートステイを利用し残りは在宅で過ごし、ショートステイをうまく利用しながら在宅での介護されている家族さんが多い印象。
25. 在宅生活を成功させる為には介護者が心身ともに健康が大切。
26. レスパイトは制度上も認められているので、施設や病院をうまくシェアできればいいと思う。